

(3) Q-SACCS を用いたグループワーク

① グループワークの進め方

■オリエンテーション・個別ワーク(25分)

『わがまち』のQ-SACCSを行う

■全体共有(25分)

市・町・村 それぞれ1~2名ずつ
作成したQ-SACCSを発表いただく

■グループワーク(45分)

市・町・村 各グループで意見交換
我がまちの強み、課題 &
グループ共通の強み、課題

■全体共有(15分)

市・町・村 各グループ から
意見交換の内容を発表いただく

■全体討論(10分)

Q-SACCSを用いて、市区町村の支援体制づくりを進めていくための演習の例を紹介します。

この演習の目的は、Q-SACCSを用いながら参加者が携わっている市区町村の支援体制が見える化することによって、①「わがまちの強みや価値」を発見し、②抽出された課題を解決するために取り組む動機や解決に向かうヒントを得ることにあります。



演習はグループで行います。ここでは、1グループあたり4名を想定して時間配分しています。参加人数や全体の時間数によって、グループあたりの人数や時間配分を調整することが可能です。

この演習は、市区町村の行政担当者、専門職および圏域・都道府県の行政担当者、専門職が主な対象ですが、発達障害者支援地域マネージャーや発達障害者支援センター、基幹型相談支援事業所、児童相談所、精神保健福祉センター、知的障害者更生相談所、圏域福祉事務所や保健所などに勤務する専門職のなかで、市区町村の支援体制づくりを応援する立場の方々も対象にしています。また、複数の市区町村や圏域で設置されている地域自立支援協議会の構成員で行うことも可能です。

なお、市区町村設置の自立支援協議会の構成員が集まって演習する場合は、④⑤と⑥の前半は省略してかまいません。

グループは、同じ規模の自治体同士で構成するのがよいでしょう。圏域や都道府県主催で演習を行う場合は、同じ規模の市区町村からなる各4~6名のグループを作って実施します。

② オリエンテーション

1. 自己紹介(1分間スピーチ)
ご所属・お名前・参加の動機・好きな動物
2. 役割決定
進行役は ○○が○○な人
記録役と発表者は○○が○○な人

まず、各1分間程度の持ち時間で自己紹介を行います。自己紹介の内容は、ご自身の所属、名前、本演習への参加動機と好きな動物とします。

全員の自己紹介を終えた後に、役割分担を決めます。自己紹介の中で話した好きな動物が、グループ内で最も大きい動物であった人が進行役を担い、最も小さい動物であった人が記録役と全体発表役を担います。

自己紹介と役割分担は、アイスブレイクも兼ねています。好きな動物を定番の犬や猫と発言する人が複数いる場合には、犬や猫の種類も追加質問してみるなど、場の雰囲気のを和やかにする工夫も必要です。

③ 個別ワーク

- 個別ワーク(25分)
『わがまち』の Q-SACCS を行う

次に、個人ワークで「わがまち」のQ-SACCSを実施します。

記入法については、『(2) Q-SACCSの記入方法』を参照してください。色分けによる強みや課題の抽出は、可能な範囲で実施します。個人ワークの段階で色分けできない場合は、グループワークで色分けを行います。

■Q-SACCS(青:事業化できている、赤:明確化が課題、緑:機能強化が課題)

対象(※)	0～3歳	4～6歳	7～15歳
レベル1 (項目) 日常生活水準			
定期的 インターフェイス (情報共有、紹介等) SW1H			
レベル2 (項目) 専門療育的支援			
定期的 インターフェイス (情報共有、紹介等) SW1H			
レベル3 (項目) 医療的支援			

※事業の全てを自治体職員で実施○、一部の機能を外部に委託△、全てを外部に委託□、を記入下さい。

▲シート 1

■Q-SACCS(青:事業化できている、赤:明確化が課題、緑:機能強化が課題)

対象(※)	0～3歳	4～6歳	7～15歳	16～18歳	19～35歳	36歳～
レベル1 (項目) 日常生活水準						
定期的 インターフェイス (情報共有、紹介等) SW1H						
レベル2 (項目) 専門療育的支援						
定期的 インターフェイス (情報共有、紹介等) SW1H						
レベル3 (項目) 医療的支援						

※事業の全てを自治体職員で実施○、一部の機能を外部に委託△、全てを外部に委託□、を記入下さい。

▲シート 2

④ 全体共有

■全体共有(25分)

市・町・村 それぞれ1~2名ずつ作成した
Q-SACCS を発表いただく

個人ワークで作成したQ-SACCSを1人あたり3分程度で発表し、全体で共有します。

発表者の数は、市区町村の規模ごとに1~2人とします。

全体で共有する目的は、①Q-SACCSの用途を確認すること(記入方法に沿って記入できているかの確認など)、②規模の異なる他の市区町村の体制を知ること、「わがまち」の強みや課題抽出の気づきを得ることです。

1人ずつQ-SACCSを発表した後に、質疑応答を行います。助言者がいる場合には、助言者にコメントを求めます。助言者は、目的①②に沿ってコメントを行います。

⑤ グループワーク

■グループワーク(45分)

『市・町・村 各グループで意見交換
我がまちの強み、課題 &
グループ共通の強み、課題』

個人ワークで作成したQ-SACCSを用いて、グループワークを行います。

進行役が司会をしながら、グループメンバー全員が順番に①個人ワークで記入したQ-SACCSを紹介、②グループメンバーからの質疑とコメントの順で進行します。

1人の持ち時間は8分程度を目安とします。その内訳は、Q-SACCSの紹介に3分程度、グループメンバーの質疑とコメントに5分程度とします。

⑥ グループまとめ

()グループ

市町村名	強み	課題

発表者以外のグループメンバーは、各自が作成した「わがまちのQ-SACCS」と比較しながら発表者に質疑を行い、発表者が気づいていない市区町村の支援体制の強みや課題があれば、コメントします。

発表者が発言した強みと課題に加えて、グループメンバーがコメントした強みと課題を記録役が記録します。

()グループ共通の 強み と 課題

強み	課題

すべてのグループメンバーの発表と質疑・コメントが終わったら、記録役が記録した表を全員で共有しながら、グループに共通する強みと課題を残りの時間10分程度で協議します。

この協議の目的は、他の市区町村の強みと課題を知ること、①改めて「わがまちの支援体制の強み」を発見すること、②「わがまちの支援体制の課題」を解決するヒントを得ること（他の市区町村の強みが活用できるかもしれないという気づきを得ること）です。

ワンポイントアドバイス



演習を市区町村の支援体制づくりをサポートする部署や機関が主催している場合は、参加者への事後アンケートを実施し、演習の感想や意見と共に、参加者各自の気づきを実際に具現化して、市区町村単位で取り組むために受けたサポートを記す欄を設けるなどの工夫をするとよいでしょう。たとえば、支援体制づくりのサポートを受けたい場合は、担当者名と連絡先などの記名を求めることで、演習のフォローアップを実施することができます。

⑦ 全体共有と全体討論

次に、各グループに共通した強みと課題を全体で共有します。

グループ数にもよりますが、各グループ3分程度で発表します。

各グループで行った協議内容を全体で共有することによって、人口規模の異なる市区町村の強みや課題を知ることができます。これも、①改めて「わがまちの支援体制の強み」を発見すること、②「わがまちの支援体制の課題」を解決するヒントを得ること(他の市区町村の強みが活用できるかもしれないという気づきを得ること)につながります。



最後に、全体討論を行い、参加者からの自由な感想や意見を求めます。

個人ワークによって市区町村の支援体制づくりの「最初の一步」として「見える化」を行えたこと、グループワークと全体共有では、他の市区町村の支援体制を理解することでわがまちの強みを発見し、課題解決のヒントを得たことを全体討論の場で確認します。